



Sun Blade™ X6440 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステム インストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-5316-10
2008 年 7 月

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書で説明している製品に搭載された技術の知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されている1つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における1つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。およびその他の国における商標または登録商標です。

本製品の一部は、Berkeley BSD systemsに由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Solaris、Sun Blade、docs.sun.com、Sun Fire、および Solaris ロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft は、Microsoft Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Windows は、Microsoft Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴは、Adobe Systems, Incorporated の登録商標です。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または1対1での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的でCPUを使用することは、固く禁じられています。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに v

1. 概要 1

インストールの前提条件 2

インストールに関する重要な考慮事項 3

サポートされている Windows オペレーティングシステム 4

サーバー固有のドライバパッケージ 4

インストール手順 5

2. 取得方法の選択 7

大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択 8

Windows Server のメディアの取得方法の選択 9

3. JavaRConsole システムの設定 11

JavaRConsole システムの要件 12

JavaRConsole システムのセットアップ 13

▼ JavaRConsole システムをセットアップする 13

4. Windows Server 2003 のインストール	19
インストール要件	19
Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール	20
▼ Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする	21
5. Windows Server 2008 のインストール	27
インストール要件	27
Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール	28
▼ Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールする	29
6. 重要なシステム固有のドライバのアップデート	35
システム固有ドライバのアップデート	35
▼ システム固有ドライバをアップデートする	35
オプションコンポーネントのインストール	38
▼ オプションコンポーネントをインストールする	38
7. RIS サーバーからの Windows Server 2003 イメージのインストール	41
必要なドライバの確認	42
RIS イメージ用のドライバファイルの取得	42
RIS イメージの構成	43
Windows Server 2003 SP2 32 ビットシステム用の RIS イメージの構成	43
▼ Windows Server 2003 SP2 32 ビットシステムの RIS イメージを構成する	43
Windows Server 2003 SP2 64 ビットシステム用の RIS イメージの構成	51
▼ Windows Server 2003 SP2 64 ビットシステム用の RIS イメージを構成する	51
クライアントシステムへの RIS イメージのインストール	58
▼ クライアントシステムに RIS イメージをインストールする	58
索引	59

はじめに

本書『Sun Blade X6440 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド』では、Sun Blade X6440 サーバーモジュールに Windows Server オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

関連ドキュメント

Sun Blade X6440 サーバーモジュールのドキュメントセットについては、サーバーモジュールに付属している『Sun Blade X6440 サーバーモジュールご使用の手引き』(820-5336) を参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、Sun Blade X6440 のドキュメントのページに移動してください。

<http://docs.sun.com/>

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

サポートとトレーニング

Sun の部門	URL
サポート	http://www.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

製品のアップデート

ダウンロードが可能な Sun Blade X6440 サーバーモジュール製品のアップデートについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/download/>

該当するハードウェアドライバのセクションを見つけ、「X64 Servers & Workstations (X64 サーバーおよびワークステーション)」をクリックします。Sun Blade X6440 サーバーモジュールのサイトでは、ファームウェアとドライバのアップデートに加え、CD-ROM .iso イメージが提供されています。

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェルスーパーユーザー	#

表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトからお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

Sun Blade X6440 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド、820-5316-10

概要

この章では、Sun Blade X6440 サーバーモジュールに Microsoft Windows Server オペレーティングシステムをインストールする前に知っておく必要のある情報について説明します。

注 – この章には、インストール処理中に役立つ重要なガイドラインおよび情報が記載されています。Microsoft Windows Server のインストールを開始する前に、必ずこの章の残りの部分に目を通してください。

この章には次のセクションがあります。

- 「インストールの前提条件」(2 ページ)
- 「インストールに関する重要な考慮事項」(3 ページ)
- 「サポートされている Windows オペレーティングシステム」(4 ページ)
- 「サーバー固有のドライバパッケージ」(4 ページ)
- 「インストール手順」(5 ページ)

ヒント – Microsoft Windows Server オペレーティングシステムをインストールするには、Sun Installation Assistant (SIA) を使用することをお勧めします。SIA は、サーバーに Windows をインストールする際に役立つ、便利なフロントエンドアプリケーションです。Microsoft Windows Server に付属している標準のインストールユーティリティーと手順を補完するもので、それに代わるものではありません。詳細は、『*Sun Installation Assistant User's Guide* (Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』(820-3357) を参照してください。

インストールの前提条件

Sun Blade X6440 サーバーモジュールには、Windows Server オペレーティングシステムに付属していないサーバー固有のドライバが追加が必要です。本書の以降の章で、オペレーティングシステムおよびドライバへのアクセス方法、ならびにこれらのインストール方法を説明します。このインストール手順は、32 ビットおよび 64 ビット両方のバージョンの Microsoft Windows Server 2003/2008 で実行できます。

選択した方法によっては USB ハブが必要です。開始する前に、次にアクセスできることを確認してください。

- Windows Server のインストールメディア
- Sun Blade X6440 サーバーモジュールのインストールメディア
- USB キーボードおよびマウス
- モニター
- USB で接続した CD/DVD ドライブ
- USB フロッピーディスクドライブとフロッピーディスク
- USB ハブ (選択したインストール方法による)
- Sun Blade X6440 サーバーモジュールの前面スロットに接続する最低 2 つのポートを備えた USB ドングルコネクタ

注 - 使用しているサーバーモジュールには USB ポートが 2 つしかありません。必要に応じて、キーボード、マウス、および CD ドライブ用の USB ハブを接続するために、システムに付属のドングルケーブルを使用してください。そうすることにより 2 番目の USB ポートを USB フロッピーディスクドライブ用に使用できます。

インストールに関する重要な考慮事項

Sun Blade X6440 サーバーモジュールへの Windows Server オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要事項について検討してください。

- Windows オペレーティングシステムをインストールするときに、あらかじめインストールされていたオペレーティングシステムを含め、起動ドライブのすべてのデータが上書きされます。
- インストール時に最も注意すべき点は、Sun Blade X6440 サーバーモジュールで使用されるディスクコントローラ用に、大容量記憶装置ドライバをインストールすることです。Microsoft Windows Server のメディアには、オペレーティングシステムのインストールに必要な大容量記憶装置ドライバが収録されていません。

Windows の場合、フロッピーディスクを介して大容量記憶装置ドライバを取得する必要があります。Windows のインストールプログラムでは、フロッピーディスクドライブ A からのみ、大容量記憶装置ドライバを読み込むことができます。大容量記憶装置ドライバの取得に関しては、CD や DVD、または USB フラッシュドライブなど、他のデバイスはサポートされていません。

Windows Server のインストール用のドライバを取得するには、次の 3 つの方法があります。

- 少なくとも 2 つのポートを備えた USB ドングルコネクタに物理 USB フロッピーディスクドライブを接続し、この USB ドングルコネクタを Sun Blade X6440 サーバーモジュールの前面スロットに接続します。
 - RKVMS¹ を使用して、JavaRConsole² が動作している別のシステム (JavaRConsole システム) の物理フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。
 - RKVMS を使用して、JavaRConsole システムのフロッピーディスクイメージファイルにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。
- また、Windows Server のインストールメディアを取得する際も、次の 3 つの方法があります。
- 少なくとも 2 つのポートを備えた USB ドングルコネクタに物理 USB CD ドライブを接続し、この USB ドングルコネクタを Sun Blade X6440 サーバーモジュールの前面スロットに接続します。
 - RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの物理 CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。
 - RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの Windows CD イメージに CD ドライブをリダイレクトします。

選択した方法によっては、最低 2 つのポートを備えた USB ハブが必要です。

1. RKVMS-リモートのキーボード、ビデオ、マウス、ストレージ。ネットワークに接続されたシステムを介して、サーバーのキーボード、ビデオ出力、マウス、およびストレージデバイスのリダイレクトを可能にします。

2. JavaRConsole- ネットワークに接続されたシステムから実行されるILOM リモートコンソールアプリケーション。

RKVMS を使用してインストールする場合は、どの方法でも、Sun Integrated Lights-Out Manager (ILOM) のドキュメントで、インストールに必要なハードウェアのセットアップの詳細を参照する必要があります(ILOM には複数のバージョンがあるので、必ず、お使いのサーバーにインストールされている ILOM のバージョンに一致するガイドを参照してください)。

サポートされている Windows オペレーティングシステム

本書の発行時点で、Sun Blade X6440 サーバーモジュールは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

- Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition with SP2 (32 ビット版および 64 ビット版)
- Windows Server 2008 R2 Enterprise/Datacenter (32 ビット版および 64 ビット版)

Sun Blade X6440 サーバーモジュールでサポートされるオペレーティングシステムの最新のリストは、<http://www.sun.com/servers/blades/> で参照できます。

注 – Sun Blade X6440 サーバーモジュールの起動ディスクには、Solaris オペレーティングシステムまたは Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition with SP2 オペレーティングシステムがプリインストールされています。

サーバー固有のドライバパッケージ

Windows Server オペレーティングシステムのインストールで利用できるサーバー固有のドライバパッケージは次のとおりです。

- `lsi_floppy.img` - LSI 3081E ドライバが含まれています。
- `sst_floppy.img` - Sun StorageTek ドライバが含まれています。

これらのドライバは、Sun Blade X6440 サーバーモジュールに付属の Tools and Drivers DVD (708-0347) に収録されています。

インストール手順

この節では、Sun Blade X6440 サーバーモジュールに Windows Server オペレーティングシステムをインストールするために実行する手順の概要を説明します。

注 – リモートインストールサービス (RIS) サーバーを使用して Windows Server 2003 をインストールする場合は、[「RIS サーバーからの Windows Server 2003 イメージのインストール」](#) (41 ページ) を参照してください。

表 1-1 に、Sun Blade X6440 サーバーモジュールに Windows Server オペレーティングシステムをインストールする際の要件を示します。

表 1-1 インストール要件

項目	ローカル	リモート
Windows Server 2003/2008 のインストールメディア	必要。	必要。
Sun Blade X6440 サーバー モジュールのインストールメディア (ダウンロードまたは Tools and Drivers DVD [708-0347])	必要。	必要。
フロッピーディスク	REM 搭載システムにのみ必要。	REM 搭載システムにのみ必要。
キーボード、モニタ、およびマウス	必要。 dongle/USB ハブに接続。	必要。 ローカルコンピュータに接続。
dongleケーブル	必要。	不要。
USB ハブ	省略可。 dongleケーブルの USB コネクタに接続。	不要。
CD/DVDドライブ	必要。 USB ハブに接続された USB CD/DVD ドライブ。	必要。 ローカルコンピュータに接続された CD/DVD ドライブ。 CD イメージのインストールには不要。 代わりに .iso ファイルを使用します。
フロッピーディスクドライブ	REM 搭載システムにのみ必要。 dongleケーブルの USB コネクタに直接接続された USB フロッピーディスクドライブ。	REM 搭載システムにのみ必要。 ローカルコンピュータに直接接続されたフロッピーディスクドライブ。

注 – RAID 拡張モジュール (REM) を搭載したシステムに大容量記憶装置ドライバをインストールするには、フロッピーディスクとフロッピーディスクドライブが必要です。REM を搭載していないシステムでは不要です。

Windows Server 2003/2008 をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 「取得方法の選択」(7 ページ)。
2. 「JavaRConsole システムの設定」(11 ページ) (必要に応じて実行します)。
3. 次のいずれかの Windows OS インストール手順を実行します。
 - 「Windows Server 2003 のインストール」(19 ページ)。
 - 「Windows Server 2008 のインストール」(27 ページ)
4. 「重要なシステム固有のドライバのアップデート」(35 ページ)。

取得方法の選択

この章では、インストール用の大容量記憶装置ドライバおよび Windows のメディアの取得方法をどのように選択するかについて説明します。

大容量記憶装置ドライバおよび Windows Server のメディアの取得方法を選択するには、次の手順に従います。

- 「[大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択](#)」(8 ページ)。
- 「[Windows Server のメディアの取得方法の選択](#)」(9 ページ)。

上の手順を完了したら、選択した取得方法をメモして、[第 3 章](#)に進みます。

大容量記憶装置ドライバの取得方法の 選択

注 – 大容量記憶装置ドライバは、RAID (Redundant Array of Independent Disks) 拡張モジュール (REM) を搭載しているサーバーモジュールでのみ必要です。REM を搭載していないサーバーモジュールを使用している場合は、この節の手順を省略してかまいません。

Sun Blade X6440 サーバーモジュールで Windows Server をインストールするために大容量記憶装置ドライバを準備するには、次の 3 つの方法を使用できます。

- **フロッピーローカル**: サーバーモジュールの dongle の USB ポートに外部接続された物理 USB フロッピーディスクドライブを使用します。USB ハブも使用できます。
- **フロッピーリモート**: JavaRConsole を使用して、JavaRConsole が動作しているシステムに物理的に接続されたフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。
- **フロッピーイメージ**: JavaRConsole を使用して、JavaRConsole が動作しているシステム上のフロッピーディスクイメージファイルにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。

表 2-1 で、使用する環境に合う方法を選択します。選択した取得方法をメモします。

表 2-1 大容量記憶装置ドライバの取得方法

Windows Server のメディアの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
フロッピーローカル	次の Windows Marketplace サイトで「Designed for Windows (Windows 専用)」と表示されている USB 外付けフロッピーディスクドライブ: http://testedproducts.windowsmarketplace.com/ <ul style="list-style-type: none">• フロッピーディスク	簡単。
フロッピーリモート	<ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6440 サーバーモジュールのネットワーク管理ポートとその接続フロッピーディスクドライブにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム• フロッピーディスク	中レベル: インストールにかかる時間は、フロッピーディスクローカルの方法よりもわずかに長くなります。
フロッピーイメージ	<ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6440 サーバーモジュール管理ネットワークポートにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、フロッピーディスクローカルの方法よりもわずかに長くなります。

Windows Server のメディアの取得方法の選択

Sun Blade X6440 サーバーモジュールで Windows Server をインストールするために Windows メディアを準備するには、次の 3 つの取得方法を使用できます。

- *Windows ローカル*: サーバーモジュールの dongle の USB ポートに接続された物理 CD/DVD ドライブを使用します。USB ハブも使用できます。
- *Windows リモート*: JavaRConsole を使用して、JavaRConsole が動作しているシステムに物理的に接続された CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。
- *Windows イメージ*: JavaRConsole を使用して、JavaRConsole システムの Windows メディアイメージファイルに CD ドライブをリダイレクトします。

表 2-2 で、使用する環境に合う方法を選択します。選択した取得方法をメモします。

表 2-2 Windows Server のメディアの取得方法

Windows Server のメディアの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
Windows ローカル	物理 CD ドライブをサーバーモジュールに接続するには、システムに付属の dongle ケーブルを使用して USB ハブを接続します。そうすることでキーボード、マウス、および CD/DVD を接続できるようになります。Windows Marketplace サイト (http://testedproducts.windowsmarketplace.com/) を参照して、「Designed for Windows (Windows 専用)」と表示されている CD/DVD ドライブを使用してください。	簡単
Windows リモート	Sun Blade X6440 サーバーモジュールのネットワーク管理ポートとその接続 CD/DVD ドライブにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。
Windows イメージ	Sun Blade X6440 サーバーモジュール管理ネットワークポートにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。

JavaRConsole システムの設定

この章では、オペレーティングシステムのインストール用に大容量記憶装置ドライバや Windows Server のメディアを取得するために JavaRConsole システムをセットアップする方法について説明します。

注 – 第 2 章でフロッピーローカルおよび Windows ローカルの両方の取得方法を選択した場合は、この章をスキップし、第 4 章に進んでください。

この章には次のセクションがあります。

- 「JavaRConsole システムの要件」 (12 ページ)
- 「JavaRConsole システムのセットアップ」 (13 ページ)

第 2 章で大容量記憶装置ドライバまたは Windows メディアを取得する方法として次のいずれかを選択した場合は、JavaRConsole システムをセットアップする必要があります。

- フロッピーリモート
- フロッピーイメージ
- Windows リモート
- Windows イメージ

注 – ここでは、JavaRConsole (ILOM リモートコンソールとも言います) を実行するシステムの詳細な構成手順については説明しません。ILOM と JavaRConsole を実行するシステムの構成の詳細については、Sun Integrated Lights-Out Manager (ILOM) のドキュメントを参照してください (ILOM には複数のバージョンがあるので、必ず、お使いのサーバーにインストールされている ILOM のバージョンに一致するガイドを参照してください)。

JavaRConsole システムの要件

JavaRConsole システムとは、JavaRConsole (ILOM リモートコンソールアプリケーション) をホストしているシステムを意味します。

JavaRConsole が次の要件を満たしていることを確認してください。

- Solaris、Linux、または Windows オペレーティングシステムがインストールされていること。
- Sun Blade X6440 シリーズの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークにシステムが接続されていること。
- Java ランタイム環境 (JRE) 1.5 以降がインストールされていること。
- JavaRConsole システムを Solaris 上で実行している場合は、JavaRConsole が物理的に接続されたフロッピーディスクドライブ、CD/DVD-ROM ドライブ、またはその両方にアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
- JavaRConsole システムを Windows Server 上で実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にする必要があります。

注 – この手順では、Sun Integrated Lights Out Manager のドキュメントに記載されている手順に従って JavaRConsole システムおよび ILOM サービスプロセッサがセットアップされていることを前提としています (ILOM には複数のバージョンがあるので、必ず、お使いのサーバーにインストールされている ILOM のバージョンに一致するガイドを参照してください)。

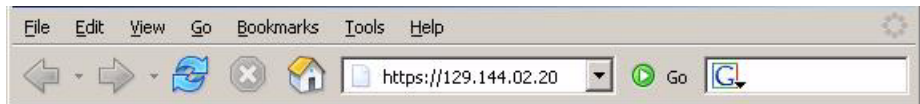
JavaRConsole システムのセットアップ

JavaRConsole システムをセットアップするには、次の手順に従います。

▼ JavaRConsole システムをセットアップする

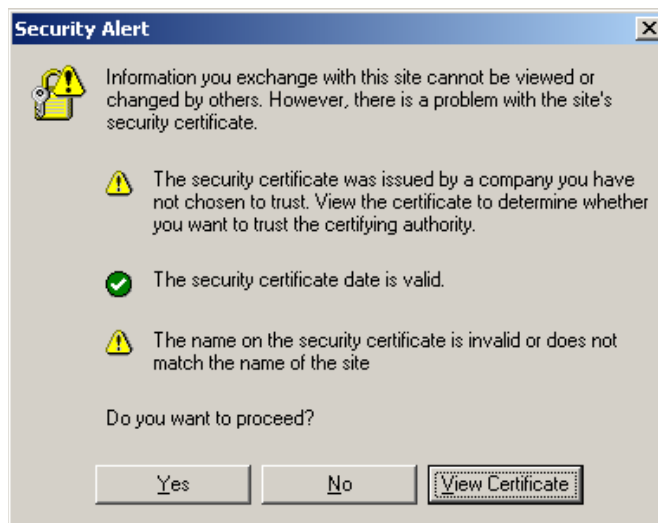
1. 図 3-1 に表示されている URL 形式で、JavaRConsole システムのブラウザに ILOM サービスプロセッサの IP アドレスを入力して、ILOM Web インタフェースを起動します。

図 3-1 URL の例



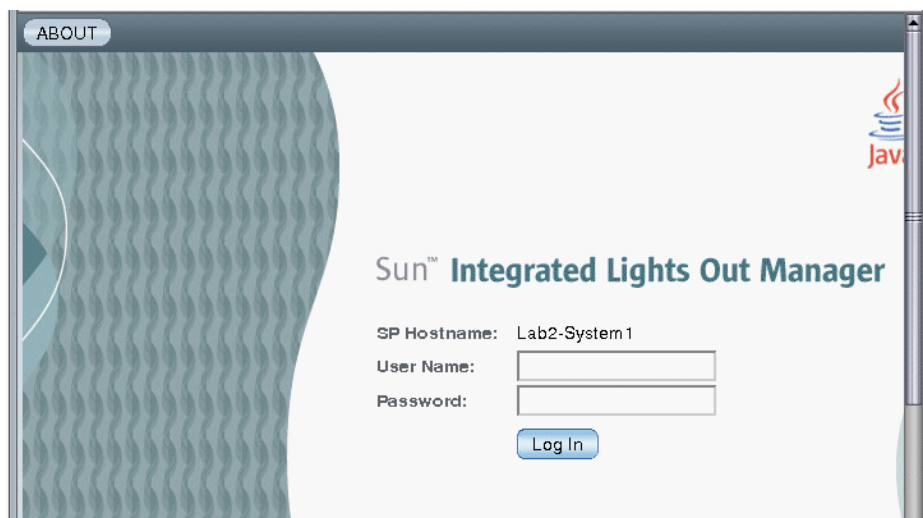
「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されます。

図 3-2 「セキュリティの警告」ダイアログボックス



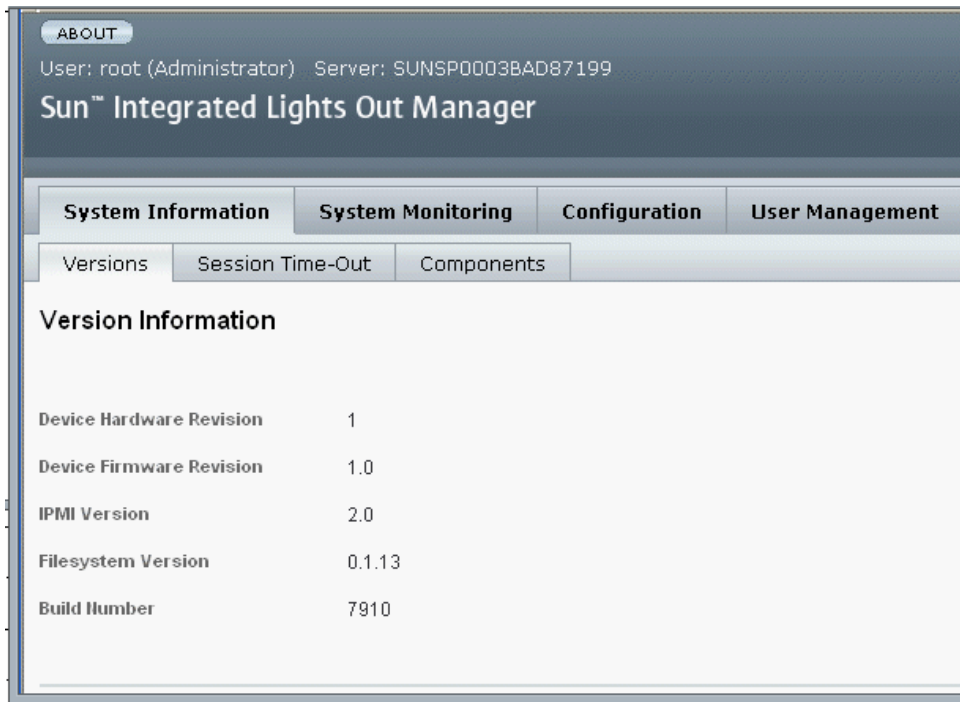
2. 「はい」 をクリックします。
ILOM のログイン画面が表示されます。

図 3-3 ログイン画面



3. ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In (ログイン)」をクリックします。
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。
「ILOM Version (ILOM のバージョン)」ページが表示されます。

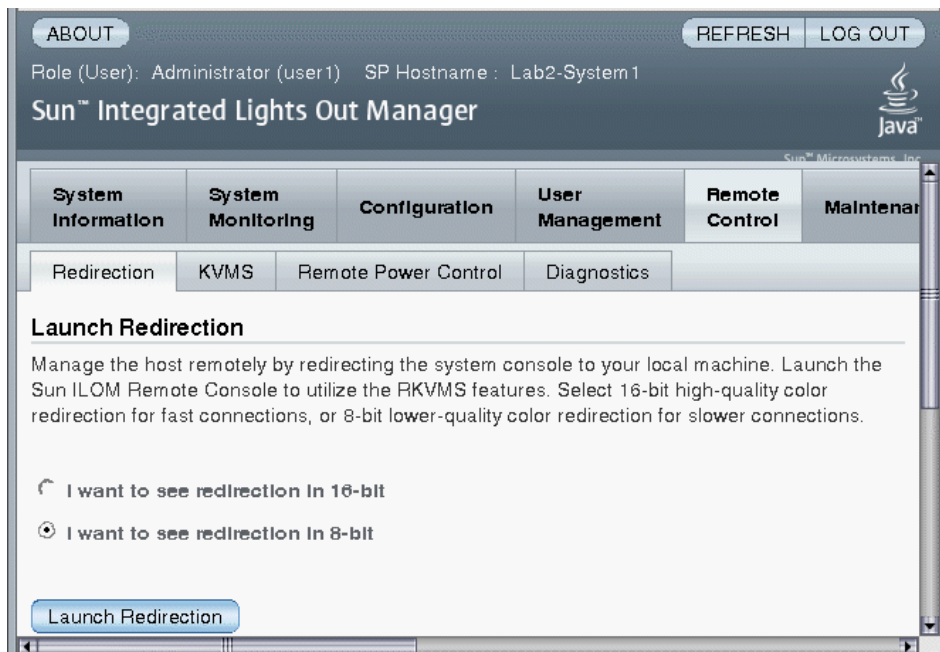
図 3-4 「ILOM Version (ILOM のバージョン)」ページ



4. 「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。
「Remote Console (リモートコンソール)」ページが表示されます。

注 – マウスモードが「Absolute (絶対)」に設定されていることを確認します。
「Remote Control (リモートコントロール)」タブの「Mouse Mode Settings (マウスモードの設定)」タブをクリックし、ドロップダウンメニューで「Absolute (絶対)」を選択して「Save (保存)」をクリックします。

図 3-5 「ILOM Remote Console (ILOM リモートコンソール)」 ページ



5. 「Redirection (リダイレクト)」 タブを選択し、8 ビットカラーまたは 16 ビットカラーを選択して「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックします。

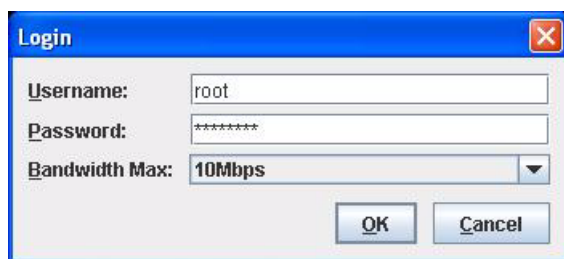
注 – JavaRConsole システムのリダイレクトに Windows システムを使用している場合は、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックした後に追加の警告メッセージが表示されます。「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスが表示されたら、「Yes (はい)」ボタンをクリックします。

図 3-6 「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」 ダイアログボックス



リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックスが表示されます。

図 3-7 リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックス



6. リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックスにユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。正常にログインすると、JavaRConsole 画面が表示されます。

図 3-8 JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニュー



7. 選択した取得方法に応じて、「Devices (デバイス)」メニューからフロッピーディスクまたは CD のオプションを 1 つ、あるいは両方を 1 つずつ選択します。
- フロッピーリモート: JavaRConsole システムに物理的に接続されたフロッピーディスクドライブのコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy (フロッピー)」を選択します。
 - フロッピーイメージ: JavaRConsole システム上に保存された大容量記憶装置ドライブのフロッピーディスクイメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy Image (フロッピーイメージ)」を選択します。
 - CD-ROM リモート: JavaRConsole システムに接続された CD/DVD ドライブに挿入されたオペレーティングシステムソフトウェア CD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。
 - CD-ROM イメージ: JavaRConsole システム上に保存されたオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択します。



注意 – CD-ROM リモートまたは CD-ROM イメージのオプションを使用して Windows Server オペレーティングシステムをインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするので、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールにかかる時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。

Windows Server 2003 のインストール

この章では、Windows Server のメディアを使用して、Sun Blade X6440 サーバーモジュールに直接 Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

この章には次のセクションがあります。

- 「インストール要件」(19 ページ)
- 「Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール」(20 ページ)

インストール要件

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、必要な条件を満たしていることを必ず確認してください。

すべてのインストール方法で、次の要件を確認してください。

- 本書のここまでの章に記載されている手順をすべて実行しています。
- フロッピーローカルの方法で大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、フロッピーディスクドライブをシステムに直接接続できるよう 1 つのドングルポートを空けておくために、USB ハブを使用してください。システムに付属のドングルケーブルに USB ハブを接続します。
- オペレーティングシステムのインストールについての個別の詳細情報については、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

注 – Microsoft Windows オペレーティングシステムの全インストールプロセスについては、このセクションでは説明していません。ここでは、Sun Blade X6440 サーバーモジュールに Windows Server 2003 をインストールする場合に該当する手順のみを説明しています。

選択した大容量記憶装置ドライバおよび Windows メディアの取得方法に固有の要件については、表 4-1 を参照してください。

表 4-1 各インストール方法の要件

方法	必要な操作または項目
フロッピーローカル	USB フロッピーディスクドライブをシステムの USB ドングルポートに直接接続し、そのフロッピーディスクドライブに大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクを挿入します。*
フロッピーリモート	フロッピーディスクドライブを必要に応じて JavaRConsole システムに接続し、大容量記憶装置フロッピーディスクを挿入します。
フロッピーイメージ	JavaRConsole システムから floppy.img ファイルにアクセスできることを確認します。
Windows ローカル	Microsoft Windows Server のインストールメディアと DVD ドライブが使用できることを確認します。
Windows リモート	JavaRConsole システムの CD または DVD ドライブに Microsoft Windows Server のインストールメディアを挿入します。
Windows イメージ	JavaRConsole システムから Windows Server のインストールメディアにアクセスできることを確認します。

* Windows Marketplace サイト (<http://testedproducts.windowsmarketplace.com/>) を参照して、USB フロッピーディスクドライブのリストで「Designed for Windows (Windows 専用)」と表示されているものを使用してください。

Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール

次の手順に従って、Sun Blade X6440 サーバーモジュールに Microsoft Windows Server ソフトウェアをインストールします。



注意 – Sun Blade X6440 サーバーモジュールのコンパクトフラッシュカードには、Solaris オペレーティングシステムがあらかじめインストールされています。Windows をインストールすると、コンパクトフラッシュカードがフォーマットされ、すべてのデータが失われます。

▼ Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする

1. 「インストール要件」(19 ページ)に記載されているすべての要件を満たしていることを確認します。
2. Sun Blade X6440 サーバーモジュールの電源を再投入します。
BIOS POST プロセスが開始されます。
3. BIOS POST 画面に「Press F8 for BBS POPUP (BBS ポップアップを表示するには F8 を押します)」のプロンプトが表示されたら、F8 キーを押します。

図 4-1 F8 のプロンプト

```
Initializing USB Controllers .. Done.  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)  
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)  
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
```

BIOS POST プロセスが完了すると、「Boot Device (起動デバイス)」メニューが表示されます。

図 4-2 「Boot Device (起動デバイス)」メニュー



4. Windows ローカルの方法でインストールする場合は、ここで CD を挿入します。
5. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューから「CD-DVD」を選択します。



注意 – ステップ 6 で Enter キーを押した後は、すばやく操作を行う必要があります。手順を続行する前に、**手順 7** と **手順 8** を読んで作業内容を理解しておいてください。これらのプロンプトは 5 秒間だけ表示されるので、見逃されることがよくあります。このプロンプトが表示されている間に F6 を押さないと、追加のドライバを指定する画面が表示されず、インストールでエラーが発生します。この場合は、システムを再起動してステップ 3 に戻る必要があります。

6. Enter キーを押します。

7. 「Press any key to boot from CD (CD から起動するにはいずれかのキーを押します)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。

Windows のセットアップが開始されます。Windows Setup (Windows セットアップ) の初期に、画面下部に次のメッセージが表示されます。

Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver. (サードパーティー製の SCSI または RAID ドライバをインストールする必要がある場合は、F6 を押してください。)

8. F6 キーを押して大容量記憶装置ドライバをインストールします。

追加のデバイスを指定するには S キーを押すように指示する画面が表示されます。

図 4-3 追加デバイスの指定画面

```
Setup could not determine the type of one or more mass storage devices
installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapte
Currently, Setup will load support for the following mass storage devices(
<none>

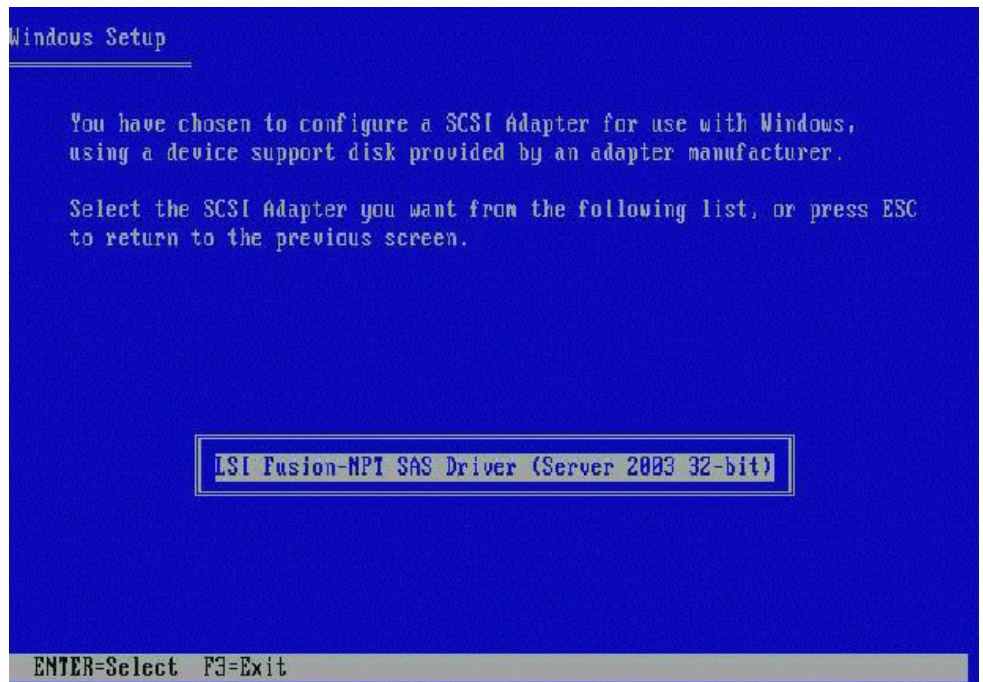
* To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special
  disk controllers for use with Windows, including those for
  which you have a device support disk from a mass storage device
  manufacturer, press S.

* If you do not have any device support disks from a mass storage
  device manufacturer, or do not want to specify additional
  mass storage devices for use with Windows, press ENTER.

S=Specify Additional Device  ENTER=Continue  F3=Exit
```

9. 選択した大容量記憶装置ドライバのインストール方法に応じて、次の大容量記憶装置ドライバにアクセスできることを確認します。
 - フロッピーローカル: Sun Blade X6440 サーバーモジュールのフロッピーディスクドライブ A に挿入された大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスク
 - フロッピーリモート: JavaRConsole サーバーのフロッピーディスクドライブに挿入された大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスク
 - フロッピーイメージ: JavaRConsole システム上の floppy.img
10. **s** を押して、追加のデバイスを指定します。
使用可能なドライバのリストが表示されます。

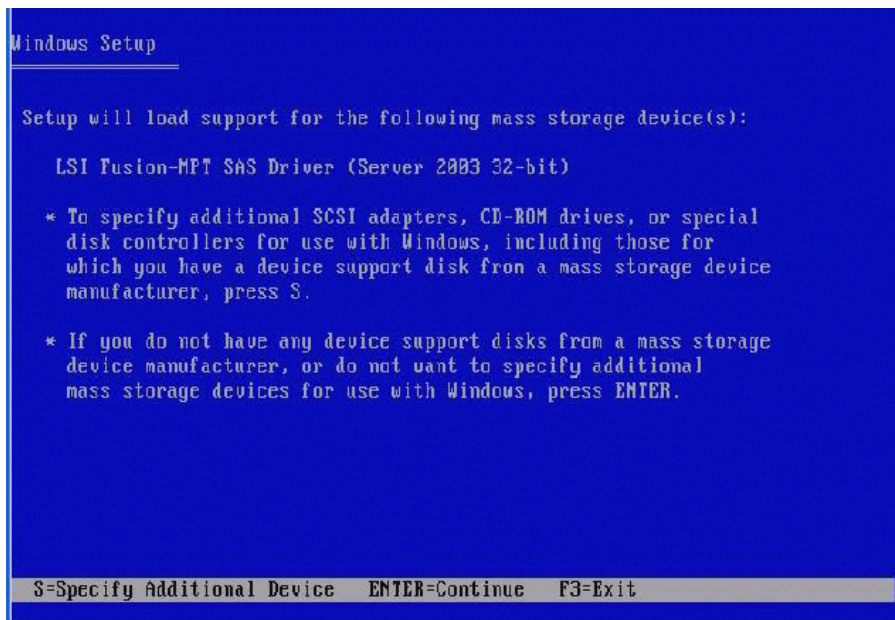
図 4-4 SCSI アダプタの選択画面



11. インストールする Windows のバージョン (32 ビット版または AMD64 版の Windows Server 2003) に応じて、適切なバージョンの LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver を選択して、Enter キーを押します。

選択内容を確認し、追加のドライバを選択する画面が表示されます。

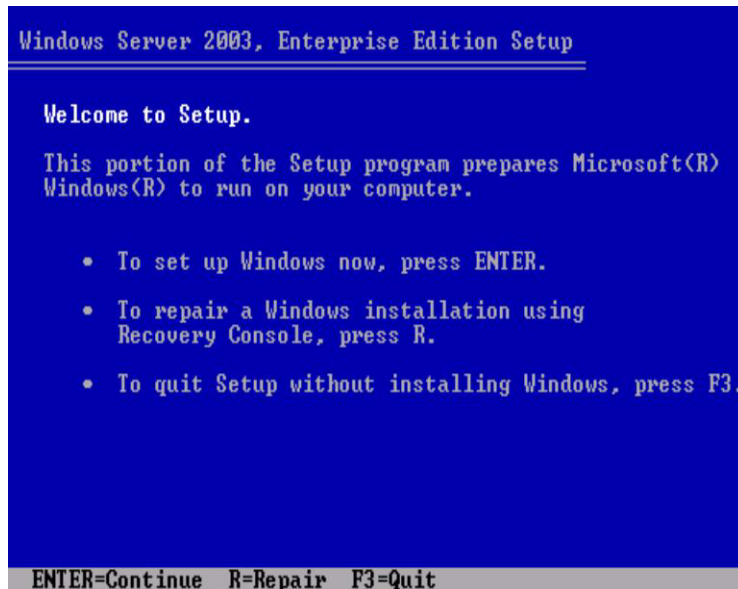
図 4-5 追加デバイスの指定画面



12. Enter キーを押して操作を続行します。

Windows セットアップの起動画面が表示されます。

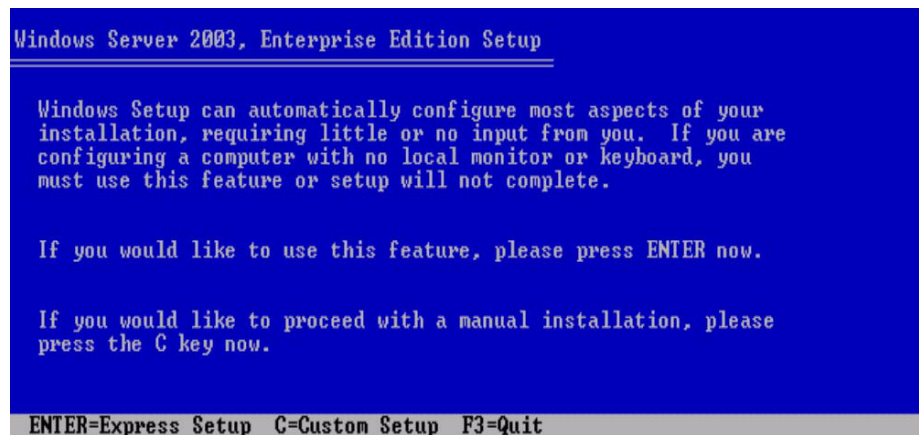
図 4-6 「Welcome to Windows Setup (Windows セットアップへようこそ)」画面



13. Enter キーを押して操作を続行します。

Windows セットアップが続行され、「Express Setup (高速セットアップ)」または「Custom Setup (カスタムセットアップ)」を選択するための画面が表示されます。

図 4-7 Windows のセットアップの選択画面



注 – システムディスクとしてハードウェア RAID を使用する場合は、「Custom Setup (カスタムセットアップ)」を選択し、手動でディスクをパーティションに分割します。ディスクの最後に、64M バイト以上の容量をパーティションで分けずに残しておいてください。

14. Enter キーを押して「Express Setup (高速セットアップ)」を選択します。
15. 画面の指示に従って、Windows Server のインストールを完了します。
インストール中にシステムがリブートします。
16. 「[重要なシステム固有のドライバのアップデート](#)」(35 ページ)に進みます。

Windows Server 2008 のインストール

この章では、Windows Server のメディアを使用して、Sun Blade X6440 サーバーモジュールに直接 Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

この章には次のセクションがあります。

- 「インストール要件」(27 ページ)
- 「Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール」(28 ページ)

インストール要件

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、必要な条件を満たしていることを必ず確認してください。

すべてのインストール方法で、次の要件を確認してください。

- 本書のここまでの章に記載されている手順をすべて実行しています。
- フロッピーローカルの方法で大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、フロッピーディスクドライブをシステムに直接接続できるよう 1 つのドングルポートを空けておくために、USB ハブを使用してください。システムに付属のドングルケーブルに USB ハブを接続します。
- オペレーティングシステムのインストールについての個別の詳細情報については、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

注 – Microsoft Windows オペレーティングシステムの全インストールプロセスについては、このセクションでは説明していません。ここでは、Sun Blade X6440 サーバーモジュールに Windows Server 2008 をインストールする場合に該当する手順のみを説明しています。

選択した大容量記憶装置ドライバおよび Windows メディアの取得方法に固有の要件については、表 5-1 を参照してください。

表 5-1 各インストール方法の要件

方法	必要な操作または項目
フロッピーローカル	USB フロッピーディスクドライブをシステムの USB ドングルポートに直接接続し、そのフロッピーディスクドライブに大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクを挿入します。*
フロッピーリモート	フロッピーディスクドライブを必要に応じて JavaRConsole システムに接続し、大容量記憶装置フロッピーディスクを挿入します。
フロッピーイメージ	JavaRConsole システムから floppy.img ファイルにアクセスできることを確認します。
Windows ローカル	Microsoft Windows Server のインストールメディアと DVD ドライブが使用できることを確認します。
Windows リモート	JavaRConsole システムの CD または DVD ドライブに Microsoft Windows Server のインストールメディアを挿入します。
Windows イメージ	JavaRConsole システムから Windows Server のインストールメディアにアクセスできることを確認します。

* Windows Marketplace サイト (<http://testedproducts.windowsmarketplace.com/>) を参照して、USB フロッピーディスクドライブのリストで「Designed for Windows (Windows 専用)」と表示されているものを使用してください。

Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール

次の手順に従って、Sun Blade X6440 サーバーモジュールに Microsoft Windows Server 2008 ソフトウェアをインストールします。



注意 – Sun Blade X6440 サーバーモジュールのコンパクトフラッシュカードには、Solaris オペレーティングシステムがあらかじめインストールされています。Windows をインストールすると、起動ディスクがフォーマットされ、すべてのデータが失われます。

▼ Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールする

1. 「インストール要件」(27 ページ)に記載されているすべての要件を満たしていることを確認します。
2. Sun Blade X6440 サーバーモジュールの電源を再投入します。
BIOS POST プロセスが開始されます。
3. BIOS POST 画面に「Press F8 for BBS POPUP (BBS ポップアップを表示するには F8 を押します)」のプロンプトが表示されたら、F8 キーを押します。

図 5-1 F8 のプロンプト

```
Initializing USB Controllers .. Done.  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)  
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)  
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
```

BIOS POST プロセスが完了すると、「Boot Device (起動デバイス)」メニューが表示されます。

図 5-2 「Boot Device (起動デバイス)」メニュー



4. Windows ローカルの方法でインストールする場合は、ここで DVD を挿入します。
5. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューから「CD-DVD」を選択します。
6. Enter キーを押します。

7. 「Press any key to boot from CD/DVD (CD/DVD から起動するにはいずれかのキーを押します)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。

Windows Server 2008 のローカライズ画面が表示されます。

図 5-3 Windows Server 2008 のローカライズ画面



- ローカライズオプションを選択し、「Next (次へ)」をクリックして操作を続行します。

「Install Windows (Windows のインストール)」画面が表示されます。

図 5-4 「Install Windows (Windows のインストール)」画面

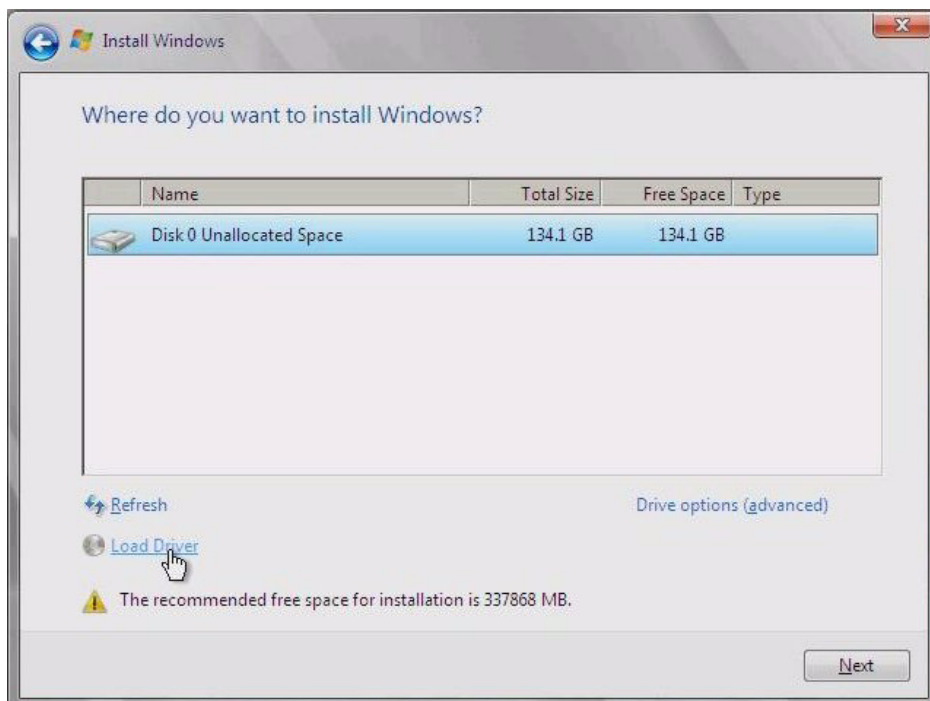


- 「Install now (今すぐインストール)」をクリックしてインストールを開始します。「Product Key (プロダクトキー)」画面が表示されたら、プロダクトキーを入力します。

10. プロダクトキーを入力し、「Next (次へ)」をクリックして続行します。

「Where do you want to install Windows? (Windows のインストール場所を選択してください)」画面が表示されます。

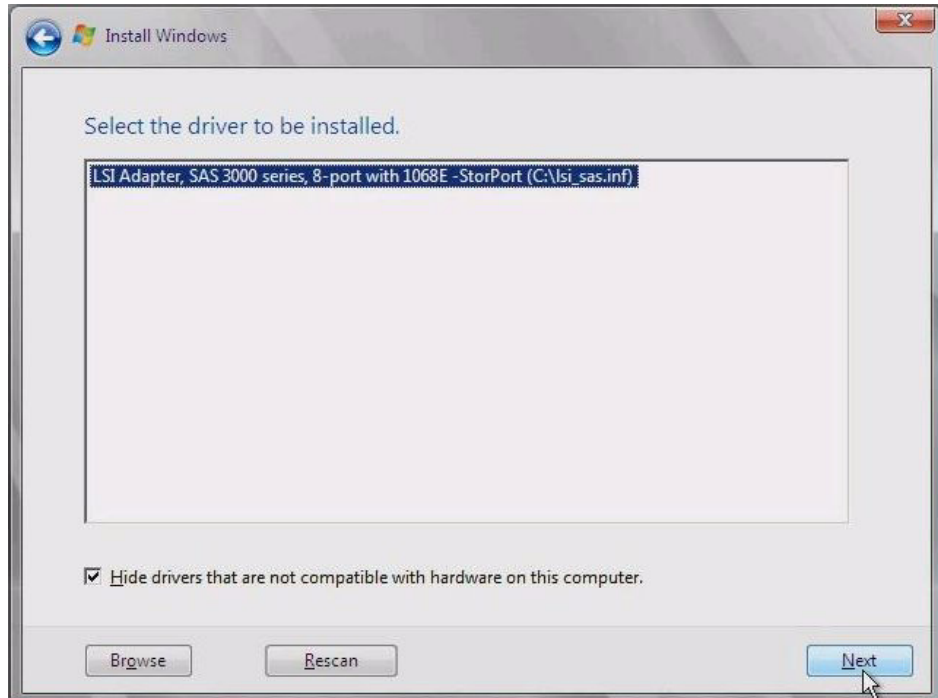
図 5-5 「Where do you want to install Windows (Windows のインストール場所を選択してください)」画面



11. (省略可能) サードパーティーの SCSI または RAID ドライバをインストールするには、次のいずれかの手順を実行します。

- 大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、「Load Driver (ドライバの読み込み)」をクリックします。「Select the Driver to Be Installed (インストールするドライバを選択してください)」画面が表示されます。この手順は、REM 搭載システムの場合のみ実行する必要があります。手順 12 に進みます。
- 大容量記憶装置ドライバをインストールしない場合は、何もしません。インストールプログラムが自動的に進み、「Select the Driver to Be Installed (インストールするドライバを選択してください)」画面が表示されます。手順 14 に進みます。

図 5-6 「Select the Driver to Be Installed (インストールするドライバを選択してください)」画面



12. 選択した大容量記憶装置ドライバのインストール方法に応じて、次の大容量記憶装置ドライバにアクセスできることを確認します。
 - フロッピーローカル: Sun Blade X6440 サーバーモジュールのフロッピーディスクドライブ A に挿入された大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスク
 - フロッピーリモート: JavaRConsole サーバーのフロッピーディスクドライブに挿入された大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスク
 - フロッピーイメージ: JavaRConsole システム上の floppy.img
13. 「Browse (参照)」をクリックしてデバイスを参照し、ドライバの適切なバージョンを選択します。
14. 「Next (次へ)」をクリックしてインストールを開始します。
15. 「重要なシステム固有のドライバのアップデート」(35 ページ)に進みます。

重要なシステム固有のドライバのアップデート

この章では、インストール済みの Windows Server 2003 に Sun Blade X6440 サーバモジュール固有のデバイスドライバソフトウェアを追加する方法について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- 「システム固有ドライバのアップデート」 (35 ページ)
- 「オプションコンポーネントのインストール」 (38 ページ)

この章の手順では、次の準備がすでにできていることを前提としています。

- 第 3 章の説明に従って、JavaRConsole が構成されていること (デバイスドライバソフトウェアをリモートでアップデートする場合)。
- Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストール済みであること。
- Sun Blade X6440 Tools and Drivers DVD (708-0347) のコピーを取得していること。

システム固有ドライバのアップデート

Windows Server システム固有のドライバをアップデートするには、次の手順に従います。

▼ システム固有ドライバをアップデートする

1. システム固有ドライバにアクセスできるようにするために、次のいずれかの手順を実行します。
 - ローカル USB DVD ドライブまたはリモート DVD ドライブに Tools and Drivers DVD を挿入します。
 - JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニューで Tools and Drivers ISO イメージをマウントします。

2. Tools and Drivers のインストールプログラムが自動的に起動し、Sun Blade X6440 サーバーの「Tools and Drivers DVD」ダイアログボックスが表示されます。

図 6-1 「Tools and Drivers DVD」ダイアログボックス



Tools and Drivers DVD が起動しない場合は、DVD ドライブをダブルクリックしてインストールプログラムを起動します。

3. 「Software and Driver Installation (ソフトウェアとドライバのインストール)」を選択して、ドライバをインストールします。

「Driver Installation/Update (ドライバのインストール/アップデート)」ダイアログボックスが表示されます。

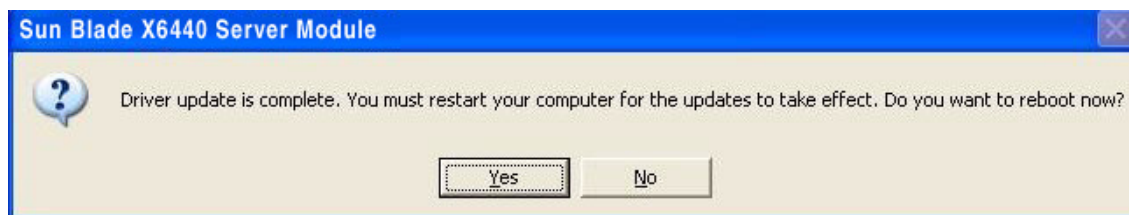
図 6-2 「Driver Installation/Update (ドライバのインストール/アップデート)」 ダイアログボックス



4. システム固有ドライバをインストールするために、「Install/Update Drivers (ドライバのインストール/アップデート)」を選択します。

ドライバのインストールが完了すると、「System Settings Change (システム設定の変更)」ダイアログボックスが開き、システム設定をアップデートするにはシステムをリブートする必要があることを示すメッセージが表示されます。

図 6-3 「システム設定の変更」ダイアログボックス



5. システムをリブートする場合は、「Yes (はい)」を選択し、オプションのコンポーネントをインストールする場合は、「No (いいえ)」を選択します。

「No (いいえ)」を選択した場合は、「[オプションコンポーネントのインストール \(38 ページ\)](#)」に進んで、オプションのコンポーネントをインストールし、「Yes (はい)」を選択した場合は、インストールが完了します。

オプションコンポーネントのインストール

LSI または Sun StorageTek REM がシステムにインストールされている場合は、次の手順を実行します。

▼ オプションコンポーネントをインストールする

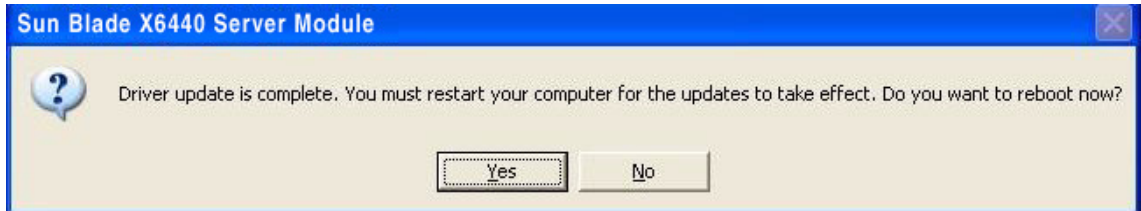
1. 画面の指示に従って、適切なドライバとソフトウェアをインストールします。

図 6-4 「Optional Software (オプションのソフトウェア)」 ダイアログボックス



適切なドライバとソフトウェアのインストールが完了すると、「System Settings Change (システム設定の変更)」ダイアログボックスが開き、システム設定をアップデートするにはシステムをリブートする必要があることを示すメッセージが表示されます。

図 6-5 「システム設定の変更」ダイアログボックス



2. 「Yes (はい)」 をクリックしてシステムをリブートし、変更を有効にします。

RIS サーバーからの Windows Server 2003 イメージのインストール

この章は、上級のシステム管理者を対象としたものです。ここでは、Sun Blade X6440 サーバーモジュールのドライバパッケージを、リモートインストールサービス (RIS) サーバー上に存在する Windows Server 2003 SP2 イメージに組み込み、その RIS イメージを Sun Blade X6440 にインストールする方法について説明します。Windows 2003 SP2 オペレーティングシステムの 32 ビット版と 64 ビット版の両方がサポートされます。

RIS を使用すると、Windows オペレーティングシステムイメージのソースとして RIS ネットワーク共有フォルダを使用してコンピュータをリモートでセットアップできます。PXE ROM またはリモート起動ディスクから起動することで、ネットワークに接続され、リモートブート可能なコンピュータに Windows オペレーティングシステムをインストールできます。Sun Blade X6440 サーバーモジュールは、このようリモートブート可能なコンピュータです。

この章は、RIS のチュートリアルではありません。あくまで、Sun Blade X6440 サーバーモジュール固有のドライバを RIS イメージに組み込む方法を説明するガイドです。

この章には次のセクションがあります。

- 「必要なドライバの確認」 (42 ページ)
- 「RIS イメージ用のドライバファイルの取得」 (42 ページ)
- 「RIS イメージの構成」 (43 ページ)
- 「クライアントシステムへの RIS イメージのインストール」 (58 ページ)

必要なドライバの確認

Windows 2003 SP2 RIS イメージに組み込む必要がある Sun Blade X6440 サーバーモジュールのサーバー固有ドライバを、表 7-1 に示します。

表 7-1 RIS インストール用 Sun Blade X6440 サーバーモジュール固有のドライバ

デバイス	32 ビット版 Windows Server 2003 SP2 に必要	64 ビット版 Windows Server 2003 SP2 に必要
AMD K8 プロセッサ	はい	はい
AMI 仮想フロッピー	はい	はい
LSI 1068E HBA	はい	はい
NVIDIA nForce4 HyperTransport ブリッジ	はい	はい
NVIDIA nForce4 LPC コントローラ	はい	はい
NVIDIA nForce4 PCI System Management	はい	はい
NVIDIA nForce4 Networking Controller	はい	はい
NVIDIA Network Bus Enumerator	はい	はい

RIS イメージ用のドライバファイルの取得

Sun Blade X6440 サーバーモジュールのドライバパッケージファイルを RIS イメージに組み込むには、Windows Server 2003 SP2 の PXE インストール用のドライバパッケージを用意する必要があります。必要なドライバファイルは、サーバーモジュールに付属の Tools and Drivers DVD (708-0347) に格納されています。

RIS イメージの構成

ここでは、RIS サーバーに配置されている RIS イメージにドライバを追加する方法を説明します。RIS イメージの名前は次のとおりです。

RemoteInstall\Setup\<<言語>\Images\<<ディレクトリ名>\<アーキテクチャ>

各エントリの内容は次のとおりです。

- **言語**は、インストールされているオペレーティングシステムの言語です (English など)
- **ディレクトリ名**は RIS イメージがインストールされているディレクトリです。
- **アーキテクチャ**は、32 ビット版イメージでは i386、64 ビット版イメージでは amd64 になります。

32 ビット版と 64 ビット版の Windows Server 2003 SP2 システムに対応するインストール手順をそれぞれ別個に説明します。

- 「[Windows Server 2003 SP2 32 ビットシステム用の RIS イメージの構成](#)」(43 ページ)
- 「[Windows Server 2003 SP2 64 ビットシステム用の RIS イメージの構成](#)」(51 ページ)

Windows Server 2003 SP2 32 ビットシステム用の RIS イメージの構成

32 ビット版の Windows Server 2003 SP2 オペレーティングシステムでは、次の手順に従います。

▼ Windows Server 2003 SP2 32 ビットシステムの RIS イメージを構成する

1. Windows Server 2003 オペレーティングシステムを実行しているシステムに RIS サポートをインストールします。

注 – Windows Server 2003 SP2 オペレーティングシステムの RIS イメージを作成する前に、Windows Server 2003 オペレーティングシステムを実行しているシステムに RIS サポートをインストールする必要があります。

Windows Server 2003 に RIS サポートをインストールする手順の詳細は、
<http://support.microsoft.com/kb/325862/en-us> を参照してください。

2. RIS サーバーで Windows Server 2003 SP2 のイメージを作成するために、次の手順を実行します。
 - a. Windows Server 2003 SP2 32 ビット版の CD-ROM を RIS サーバーの CD ドライブに挿入します。
 - b. 「スタート」メニューの「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
 - c. 「名前」ボックスに「rissetup.exe」と入力します。

「Welcome to the Remote Installation Services Setup Wizard (リモートインストールサービスのセットアップウィザードの開始)」画面が表示されます。
 - d. 「Next (次へ)」をクリックします。
 - e. 「Add a new OS image to this remote installation server (新しい OS イメージをこのリモートインストールサーバーに追加する)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。
 - f. Windows Server 2003 SP2 32 ビット版 CD を挿入したドライブを選択し、「Next (次へ)」をクリックします。
 - g. ドライブに挿入されている Windows Server 2003 SP2 32 ビット版 CD の説明的な名前を入力し、「Next (次へ)」をクリックします。次に例を示します。

Sun Blade X6440_Windows_2003_SP2_32bit
 - h. エンドユーザー向けの説明とヘルプテキストを入力し、「Next (次へ)」をクリックして操作を続行します。
 - i. 「Use the old client installation screens (古いクライアントインストール画面を使う)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。
 - j. 設定を確認し、「Finish (完了)」をクリックしてイメージをインストールします。
 - k. イメージがサーバーにインストールされたら、「Done (終了)」をクリックします。
3. サーバー固有の RIS Intel Ethernet ドライバを使用して、手順 2 で作成した RIS イメージを変更するために、次の手順を実行します。

RIS Intel Ethernet ドライバは、Tools and Drivers DVD に格納されています。

 - a. Tools and Drivers DVD を RIS サーバーの CD ドライブに挿入します。
 - b. Windows 32 ビット版 RIS Intel Ethernet ドライバファイルを RIS サーバーにローカルコピーするために、次のコマンドを入力します。

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\RIS\2003\32bit\*  
C:temp\intel
```

CD-ROM ドライブは、Tools and Drivers DVD が挿入されているドライブです。

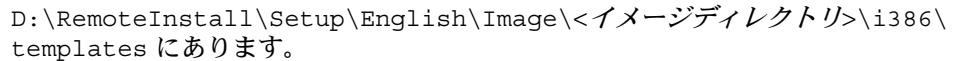
c. c:\temp\intel ディレクトリ内のすべてのファイルを、RIS サーバー上の RIS イメージにコピーします。次に例を示します。

```
> copy C:\temp\intel\*.* D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\  
<イメージディレクトリ>\i386
```

イメージディレクトリは、RIS サーバーで RIS イメージが配置されているディレクトリです。

4. ristndrd.sif ファイルを変更するために、次の手順を実行します。

ristndrd.sif ファイルは、

D:\RemoteInstall\Setup\English\Image\ templates にあります。

イメージディレクトリは、RIS サーバーで RIS イメージが配置されているディレクトリです。

a. ristndrd.sif ファイルを編集し、次のエントリを追加します。

```
[Unattended]  
OemPreinstall=yes  
[GuiUnattended]  
AdminPassword=<パスワード>
```

b. RIS サーバーのコントローラカードの種類に応じて、次のいずれかの手順に従って ristndrd.sif ファイルを編集し、指定されているエントリを追加します。

■ LSI 3081E カードの場合は、次のエントリを追加します。

```
[Unattended]  
DriverSigningPolicy = Ignore  
OemPnPDriversPath = "\drivers\nic\nvidia;\drivers\nic\intel;  
  \drivers\sata_ide;\drivers\smbus;\drivers\video;\drivers\tpm"  
[MassStorageDrivers]  
"LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver (Server 2003 32-bit)"="OEM"  
[OEMBootFiles]  
txtsetup.oem  
idecoi.dll  
lsi_sas.cat  
lsi_sas.inf  
lsi_sas.sys  
lsi_sas.tag  
lsipseud.inf  
[UserData]  
ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX  
[Identification]  
JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

- Sun StorageTek カードの場合は、次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
DriverSigningPolicy = Ignore
OemPnPDriversPath = "\drivers\nic\nvidia;\drivers\nic\intel;
  \drivers\sata_ide;\drivers\smbus;\drivers\video;\drivers\tpm"
[MassStorageDrivers]
"Adaptec SAS/SATA-II RAID Controller"="OEM"
[OEMBootFiles]
txtsetup.oem
raiddisk1
arcsas.cat
arcsas.inf
arcsas.sys
[UserData]
ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
[Identification]
JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

- 内蔵 NVidia コントローラの場合は、次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
DriverSigningPolicy = Ignore
OemPnPDriversPath = "\drivers\nic\nvidia;\drivers\nic\intel;
  \drivers\sata_ide;\drivers\smbus;\drivers\video;\drivers\tpm"
[MassStorageDrivers]
"NVIDIA RAID CLASS DRIVER (required)"="OEM"
"NVIDIA nForce Storage Controller (required)"="OEM"
[OEMBootFiles]
txtsetup.oem
nvatabus.sys
nvraid.cat
nvraid.inf
nvraid.sys
nvraidco.dll
[UserData]
ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
[Identification]
JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

5. \$oem\$ ディレクトリとそのサブディレクトリを RIS イメージディレクトリに追加するために、次の手順を実行します。
 - a. \$oem\$ ディレクトリを、次の RIS イメージディレクトリに追加します。
D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\<<イメージディレクトリ>
イメージディレクトリは、RIS サーバーで RIS イメージが配置されているディレクトリです。
 - b. \$oem\$ ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。
 \\$1\drivers
 \textmode
 - c. \\$1\drivers ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。
 \nic\intel
 \nic\nvidia
 \sata_ide
 \smbus
 \tpm
 \video
6. RIS サーバーのコントローラの種類に応じて、次のいずれかの手順に従ってドライバファイルを \$oem\$ ディレクトリツリーにコピーします。

注 – Tools and Drivers DVD には、LSI 3081E、Sun StorageTek、NVidia の 3 種類のコントローラに対応する、Windows Server 2003 SP2 32 ビットシステム用のドライバが格納されています。

- LSI 3081E コントローラカードの場合は、次のコマンドを入力して、ドライバを適切なディレクトリにコピーします。

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\RAID\lsi\drivers\  
2003\32bit\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディ  
レクトリ>\$oem$\textmode
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\RIS\2003\32bit\* D:\  
remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\i386
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\NIC\pro1000\win32\  
D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\  
$oem$\$1\drivers\nic\intel
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\chipset\2003\32bit\ethernet\  
D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\  
$oem$\$1\drivers\nic\nvidia
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\TPM\driver\32bit\  
*Driver\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレ  
クトリ>\$oem$\$1\drivers\tpm
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\video\2003\32bit\  
D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\  
$oem$\$1\drivers\video
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\32bit\  
ide\winxp\sata_ide\* D:\remoteinstall\setup\english\images\  
<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\sata_ide
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\32bit\  
smbus\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレク  
トリ>\$oem$\$1\drivers\smbus
```

各エントリの内容は次のとおりです。

- CD-ROM ドライブは、Tools and Drivers DVD が挿入されているドライブです。
- イメージディレクトリは、イメージディレクトリに割り当てた名前です。

- Sun StorageTek コントローラカードの場合は、次のコマンドを入力して、ドライバを適切なディレクトリにコピーします。

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\RAID\StorageTEK\
drivers\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレ
クトリ>\$oem$\textmode

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\RIS\2003\32bit\* D:\
remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\i386

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\NIC\pro1000\32win\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\
$oem$\$1\drivers\nic\intel

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\32bit\
ethernet\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレ
クトリ>\$oem$\$1\drivers\nic\nvidia

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\TPM\driver\32bit\
*Driver\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレ
クトリ>\$oem$\$1\drivers\tpm

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\video\2003\32bit\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\
$oem$\$1\drivers\video

copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\32bit\
ide\winxp\sata_ide\* D:\remoteinstall\setup\english\images\
<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\sata_ide

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\32bit\
smbus\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレク
トリ>\$oem$\$1\drivers\smbus
```

各エントリの内容は次のとおりです。

- CD-ROM ドライブは、Tools and Drivers DVD が挿入されているドライブです。
- イメージディレクトリは、イメージディレクトリに割り当てた名前です。

- 内蔵 NVidia コントローラの場合は、次のコマンドを入力して、ドライバを適切なディレクトリにコピーします。

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\32bit\ide\winxp\sata_raid\* D:\remoteinstall\setup\english\images\  
<イメージディレクトリ>\$oem$\textmode
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\32bit\ide\winxp\sata_ide\* D:\remoteinstall\setup\english\images\  
<イメージディレクトリ>\$oem$\textmode
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\RIS\2003\32bit\* D:\remoteinstall\setup\english\images\  
<イメージディレクトリ>\i386
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\NIC\pro1000\win32\* D:\remoteinstall\setup\english\images\  
<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\nic\intel
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\chipset\2003\32bit\ethernet\* D:\remoteinstall\setup\english\images\  
<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\nic\nvidia
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\TPM\driver\32bit\*Driver\* D:\remoteinstall\setup\english\images\  
<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\tpm
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\video\2003\32bit\* D:\remoteinstall\setup\english\images\  
<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\video
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\32bit\ide\winxp\sata_ide\* D:\remoteinstall\setup\english\images\  
<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\sata_ide
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\32bit\smbus\* D:\remoteinstall\setup\english\images\  
<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\smbus
```

各エントリの内容は次のとおりです。

- CD-ROM ドライブは、Tools and Drivers DVD が挿入されているドライブです。
- イメージディレクトリは、イメージディレクトリに割り当てた名前です。

7. txtsetup.oem ファイルを変更するために、次の手順を実行します。

- a. テキストエディタで、D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\イメージディレクトリ\\$oem\$\textmode\txtsetup.oem ファイルを開きます。

イメージディレクトリは、RIS サーバーで RIS イメージが配置されているディレクトリです。

- b. [Files.scsi.RAIDCLASS] また [Files.scsi.BUSDRV] セクションに d11 ファイルが存在する場合は、各行頭にセミコロンを追加してコメント化します。

- c. 変更を保存してファイルを閉じます。

8. RIS サーバーでリモートインストールサービス (BINLSVC) をいったん停止してから開始するために、コマンドプロンプトに次のコマンドを入力します。

```
net Stop binlsvc  
net Start binlsvc
```

9. Sun Blade X6440 サーバーモジュールに RIS イメージをインストールします。
Sun Blade X6440 サーバーモジュールに RIS イメージをインストールする手順については、「クライアントシステムへの RIS イメージのインストール」(58 ページ) を参照してください。

Windows Server 2003 SP2 64 ビットシステム用の RIS イメージの構成

64 ビット版の Windows Server 2003 SP2 オペレーティングシステムでは、次の手順に従います。

▼ Windows Server 2003 SP2 64 ビットシステム用の RIS イメージを構成する

1. Windows Server 2003 オペレーティングシステムを実行しているシステムに RIS サポートをインストールします。

注 – Windows Server 2003 SP2 オペレーティングシステムの RIS イメージを作成する前に、Windows Server 2003 オペレーティングシステムを実行しているシステムに RIS サポートをインストールする必要があります。

Windows Server 2003 に RIS をインストールする手順の詳細は、
<http://support.microsoft.com/kb/325862/en-us> を参照してください。

2. RIS サーバーで Windows Server 2003 SP2 のイメージを作成するには、次の手順に従います。
 - a. Windows Server 2003 SP2 64 ビット版の CD-ROM を RIS サーバーの CD ドライブに挿入します。
 - b. 「スタート」メニューの「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
 - c. 「名前」ボックスに「rissetup.exe」と入力します。
「Welcome to the Remote Installation Services Setup Wizard (リモートインストールサービスのセットアップウィザードの開始)」画面が表示されます。
 - d. 「Next (次へ)」をクリックします。

- e. 「Add a new OS image to this remote installation server (新しい OS イメージをこのリモートインストールサーバーに追加する)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。
- f. Windows Server 2003 SP2 64 ビット版 CD を挿入したドライブを選択し、「Next (次へ)」をクリックします。
- g. 挿入されている Windows Server 2003 SP2 64 ビット版 CD の説明的な名前を入力し、「Next (次へ)」をクリックします。次に例を示します。
Sun Blade X6440_Windows_2003_SP2_64bit
- h. エンドユーザー向けの説明とヘルプテキストを入力し、「Next (次へ)」をクリックします。
- i. 「Use the old client installation screens, and overwrite the old ones (古いクライアントインストール画面を使い、古い画面を上書きする)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。
- j. 「Review Settings (設定の確認)」ウィンドウで設定を確認し、「Finish (完了)」をクリックしてイメージをインストールします。
- k. イメージがサーバーにインストールされたら、「Done (終了)」をクリックします。

3. サーバー固有の RIS Intel Ethernet ドライバを使用して、[手順 2](#) で作成した RIS イメージを変更するために、次の手順を実行します。

RIS Intel Ethernet ドライバは、Tools and Drivers DVD に格納されています。

- a. Tools and Drivers DVD を RIS サーバーの CD ドライブに挿入します。
- b. Windows 64 ビット版 RIS Intel Ethernet ドライバファイルを RIS サーバーにローカルでコピーするために、次のコマンドを入力します。

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\RIS\2003\64bit\*  
C:\temp\intel
```

CD-ROM ドライブは、Tools and Drivers DVD が挿入されているドライブです。

- c. c:\temp\intel ディレクトリ内のすべてのファイルを、RIS サーバー上の RIS イメージにコピーします。次に例を示します。

```
> copy C:\temp\intel\*.* D:\RemoteInstall\Setup\English\  
Images\<イメージディレクトリ>\amd64
```

イメージディレクトリは、RIS サーバーで RIS イメージが配置されているディレクトリです。

4. ristndrd.sif ファイルを変更するために、次の手順を実行します。

ristndrd.sif ファイルは、

D:\RemoteInstall\Setup\English\Image\<イメージディレクトリ>\amd64\templates にあります。

イメージディレクトリは、RIS サーバーで RIS イメージが配置されているディレクトリです。

a. ristndrd.sif ファイルを編集し、次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
OemPreinstall=yes
[GuiUnattended]
AdminPassword=<パスワード>
```

b. RIS サーバーのコントローラカードの種類に応じて、次のいずれかの手順に従って ristndrd.sif ファイルを編集し、指定されているエントリを追加します。

■ LSI 3081E カードの場合は、次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
DriverSigningPolicy = Ignore
OemPnPDriversPath = "\drivers\nic\intel;\drivers\nic\nvidia;
\drivers\smbus;\drivers\tpm;\drivers\video"
[MassStorageDrivers]
"LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver (Server 2003 x64-bit)"="OEM"
[OEMBootFiles]
txtsetup.oem
lsi_sas.cat
lsi_sas.inf
lsi_sas.sys
lsi_sas.tag
lsinodrv.inf
[UserData]
ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
[Identification]
JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

■ Sun StorageTek カードの場合は、次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
DriverSigningPolicy = Ignore
OemPnPDriversPath = "\drivers\nic\intel;\drivers\nic\nvidia;
\drivers\smbus;\drivers\tpm;\drivers\video"
[MassStorageDrivers]
"Adaptec SAS/SATA-II RAID Controller(x64 device drivers)"="OEM"
[OEMBootFiles]
txtsetup.oem
```

```
raiddisk1
arcsas.cat
arcsas.inf
arcsas.sys
[UserData]
ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
[Identification]
JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

- 内蔵 NVidia コントローラの場合は、次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
DriverSigningPolicy = Ignore
OemPnPDriversPath = "\drivers\nic\intel;\drivers\nic\nvidia;\
\drivers\smbus;\drivers\tpm;\drivers\video"
[MassStorageDrivers]
"NVIDIA RAID CLASS DRIVER (required)"="OEM"
"NVIDIA nForce Storage Controller (required)"="OEM"
[OEMBootFiles]
txtsetup.oem
disk1
nvata64.inf
nvata64.sys
nvata.cat
nvatax64.sys
nvraid.cat
nvrxd64.inf
nvrxd64.sys
[UserData]
ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
[Identification]
JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

5. \$oem\$ ディレクトリとそのサブディレクトリを RIS イメージディレクトリに追加するために、次の手順を実行します。
 - a. \$oem\$ ディレクトリを、次の RIS イメージディレクトリに追加します。
D:\RemoteInstall\Setup\English\Images\<イメージディレクトリ>
イメージディレクトリは、RIS サーバーで RIS イメージが配置されているディレクトリです。
 - b. \$oem\$ ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。
\\$1\drivers
\textmode

c. %1\drivers ディレクトリの下に次のサブディレクトリを作成します。

```
\nic\intel  
\nic\nvidia  
\sata_ide  
\smbus  
\tpm  
\video
```

6. RIS サーバーのコントローラの種類に応じて、次のいずれかの手順に従ってドライバファイルを %oem% ディレクトリツリーにコピーします。

注 – Tools and Drivers DVD には、LSI 3081E、Sun StorageTek、NVidia の 3 種類のコントローラに対応する、Windows Server 2003 SP2 64 ビットシステム用のドライバが格納されています。

- LSI 3081E コントローラカードの場合は、次のコマンドを入力して、ドライバを適切なディレクトリにコピーします。

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\RAID\lsi\drivers\  
2003\64bit\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディ  
レクトリ>\%oem%\textmode
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\RIS\2003\64bit\* D:\  
remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\amd64
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\NIC\pro1000\winx64\  
*Driver\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレ  
クトリ>\%oem%\$1\drivers\nic\intel
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\64bit\  
ethernet\*Driver\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イ  
メージディレクトリ>\%oem%\$1\drivers\nic\nvidia
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\TPM\driver\64bit\  
*Driver\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレ  
クトリ>\%oem%\$1\drivers\tpm
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\video\2003\64bit\  
D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\  
%oem%\$1\drivers\video
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\64bit\  
smbus\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクト  
リ>\%oem%\$1\drivers\smbus
```

各エントリの内容は次のとおりです。

- CD-ROM ドライブは、Tools and Drivers DVD が挿入されているドライブです。
- イメージディレクトリは、イメージディレクトリに割り当てた名前です。

- Sun StorageTek コントローラカードの場合は、次のコマンドを入力して、ドライバを適切なディレクトリにコピーします。

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\RAID\StorageTEK\drivers\amd64\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\$oem$\textmode
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\RIS\2003\64bit\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\amd64
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\NIC\pro1000\winx64\*Driver\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\nic\intel
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\64bit\ethernet\*Driver\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\nic\nvidia
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\TPM\driver\driver\64bit\*Driver\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\tpm
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\video\2003\64bit\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\video
```

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\64bit\smbus\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\smbus
```

各エントリの内容は次のとおりです。

- CD-ROM ドライブは、Tools and Drivers DVD が挿入されているドライブです。
- イメージディレクトリは、イメージディレクトリに割り当てた名前です。

- 内蔵 NVidia コントローラの場合は、次のコマンドを入力して、ドライバを適切なディレクトリにコピーします。

```
> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\64bit\
ide\win64\sata_raid\* D:\remoteinstall\setup\english\images\
<イメージディレクトリ>\$oem$\textmode

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\64bit\
ide\win64\sata_ide\* D:\remoteinstall\setup\english\images\
<イメージディレクトリ>\$oem$\textmode

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\RIS\2003\64bit\* D:\
remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\amd64

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\NIC\pro1000\winx64\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\
$oem$\$1\drivers\nic\intel

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\chipset\2003\64bit\ethernet\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\
$oem$\$1\drivers\nic\nvidia

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\TPM\driver\64bit\
*Driver\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレ
クトリ>\$oem$\$1\drivers\tpm

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\video\2003\64bit\*
D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレクトリ>\
$oem$\$1\drivers\video

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\64bit\
ide\winxp\sata_ide\* D:\remoteinstall\setup\english\images\
<イメージディレクトリ>\$oem$\$1\drivers\sata_ide

> copy <CD-ROM ドライブ>:\drivers\windows\chipset\2003\64bit\
smbus\* D:\remoteinstall\setup\english\images\<イメージディレク
トリー>\$oem$\$1\drivers\smbus
```

各エントリの内容は次のとおりです。

- CD-ROM ドライブは、Tools and Drivers DVD が挿入されているドライブです。
 - イメージディレクトリは、イメージディレクトリに割り当てた名前です。
7. RIS サーバーでリモートインストールサービス (BINLSVC) をいったん停止してから開始するために、コマンドプロンプトに次のコマンドを入力します。

```
net Stop binlsvc
net Start binlsvc
```

8. Sun Blade X6440 サーバーモジュールに RIS イメージをインストールします。

Sun Blade X6440 サーバーモジュールに RIS イメージをインストールする手順については、「クライアントシステムへの RIS イメージのインストール」(58 ページ)を参照してください。

クライアントシステムへの RIS イメージのインストール

ここでは、作成および変更した RIS イメージを Sun Blade X6440 サーバーモジュールにインストールする方法を説明します。この手順を実行する前に、「[RIS イメージの構成](#)」(43 ページ)の説明に従って RIS イメージを構成する必要があります。

構成された RIS イメージには、Windows Server 2003 SP2 オペレーティングシステム (32 ビット版または 64 ビット版を構成できます) と、サーバーモジュール付属の Tools and Drivers DVD (708-0347) に格納されているサーバー固有ドライバが含まれます。

注 – RIS イメージは、PXE DHCP ベースのブート ROM をサポートするネットワークアダプタを搭載しているすべてのコンピュータにインストールできます。Sun Blade X6440 サーバーモジュールには、この種のネットワークアダプタが搭載されています。

▼ クライアントシステムに RIS イメージをインストールする

1. コンピュータの BIOS で、ネットワークアダプタが一次起動デバイスとして設定されていることを確認します。
2. クライアントコンピュータをネットワークアダプタから再起動します。
3. プロンプトが表示されたら、F12 キーを押して、クライアントインストールウィザードのダウンロードを開始します。
4. 初期画面が表示されたら、Enter キーを押します。
5. コンピュータアカウントをドメインに追加する権限を持つアカウントのユーザー名を入力し、次にアカウントのドメイン名とパスワードを入力します。
6. Enter キーを押します。
7. クライアントコンピュータのハードディスクに格納されているデータがすべて削除されるという警告メッセージが表示されたら、Enter キーを押します。

注 – Sun Blade X6440 サーバーモジュールのコンパクトフラッシュカードには、Solaris 10 オペレーティングシステムがあらかじめインストールされています。

8. このワークステーションのコンピュータアカウントとグローバルユニーク ID が表示されます。Enter キーを押してセットアップを開始します。
9. プロンプトが表示されたら、画面の指示に従ってクライアントオペレーティングシステムのインストールを完了します。

索引

J

- JavaRConsole
 - システムの設定 11
 - システムの要件 12
 - セットアップ手順 13

K

- KVM のリダイレクト 8

S

- Sun Blade X6440 システムのドライバ 35

W

- Windows インストールの準備 1
- Windows のメディア
 - CD-ROM のリダイレクト 18
 - CD イメージのリダイレクト 18
 - インストールの準備 9

あ

- オペレーティングシステムのインストール
 - Windows のメディアの準備 9
 - ガイドライン 3
 - 概要 1
 - 大容量記憶装置ドライバの準備 8
 - 手順 20, 28
 - 要件 19, 27

か

- ガイドライン、オペレーティングシステムのインストール 3

さ

- サポートされている Windows のバージョン 4
- システム固有ドライバ 35
 - アップデート 35
- システムの設定、JavaRConsole 11
- 製品アップデート vi

た

- 大容量記憶装置ドライバ
 - インストールの準備 8
 - フロッピーイメージのリダイレクト 18
 - フロッピーディスクのリダイレクト 18
- 手順、オペレーティングシステムのインストール 20, 28
- ドライバ
 - システム固有ドライバのアップデート 35
 - 大容量記憶装置ドライバ
 - 取得方法の選択 7
- ドライバアップデート vi
- ドライバのインストール
 - イメージから 8
 - リモート 8

は

ファームウェアアップデート vi

や

要件、オペレーティングシステムの
インストール 19, 27

ら

リモートインストール 8

リモートインストールサービス (RIS)

 ドライバの概要 42

 ドライバの追加 42

 必要なドライバ 42